

千葉県の保護上重要な野生生物 —千葉県レッドデータブック— 追録

第8号（令和8年3月）

○ 本号での変更

本号で行う変更は、次の6種です。詳細については次ページ以降を御覧下さい。

種名	変更内容	変更理由
ニセコクモウクジャク	Aとして新規追加	県内からあらたに発見された。
スギラン	Aとして新規追加	県内からあらたに発見された。
ヒメハイホラゴケ	Aとして新規追加	近年の分類学的研究の進展により、県内に産することが明らかとなった。
ホクリクハイホラゴケ	Bとして新規追加	近年の分類学的研究の進展により、県内に産することが明らかとなった。
ミウラハイホラゴケ	Bとして新規追加	近年の分類学的研究の進展により、県内に産することが明らかとなった。
イズハイホラゴケ	Bとして新規追加	近年の分類学的研究の進展により、県内に産することが明らかとなった。

○ 本追録の位置づけ

千葉県では、保護すべき貴重な野生生物のリストである「千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—」及び「千葉県レッドリスト」をおおむね5年の間隔で発行してきました。しかし、毎年のように未記録の野生植物の発見が報告され、5年の間隔では緊急時に対応できないことが明らかとなってきました。そこで平成22年度から、年一回、レッドデータブック・レッドリスト掲載種の追加、カテゴリー変更、削除等を行い、追録として公表しています。

本追録は、緊急を要する絶滅危惧生物のランクの改訂等を掲載し、広く県民に最新の情報を伝えることを目的としています。このため、冊子体のほかインターネットによる公開を行っています。

○ レッドデータカテゴリー等について

本冊子でカテゴリー変更、追加、削除がなされた種については、本冊子の記述が優先し、以前に発行された「千葉県レッドデータブック」及び「千葉県レッドリスト」の記述は無効となります。

A ニセコクモウクジャク メシダ科

Diplazium conterminum H.Christ

新規掲載

2009	-
2017	-
2023	-

【種の特性】常緑性。根茎は長く這う。葉身は2回羽状復生～3回羽状全裂で、最大2 m以上になる。孢子嚢群は葉の辺縁が反転した偽包膜に覆われる。コクモウクジャクの変種として扱われることもあるが、海老原（2017）に倣い、独立種として扱う。

【分布】本州（千葉県～紀伊半島の太平洋側）・四国（西部）・九州・琉球。中国、台湾、ベトナム、タイ。

【県内の状況】2021年に千葉県内で初めて確認された。生育地は成田市内の傾斜の緩やかなスギ植林内で、2m×2m程度の範囲に小群状に生育し、孢子をつけた葉もみられる。

【保護対策】生育地のスギ林と周辺環境を保全することが望ましい。近年、ノコギリシダ属のシダ類の初確認が相次いでいるが、本種も今後、確認箇所が増えてくることが予想される。

【文献】海老原 2017 日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ:330／岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ: 255.

【写真】2024年 成田市 / 木村 研一

【掲載理由】

県内での新発見であり、国内の分布北限と考えられるため、新規掲載することとした。



（木村 研一）

A スギラン ヒカゲノカズラ科

Huperzia cryptomerina (Maxim.) Dixit

新規掲載

2009	-
2017	-
2023	-

【種の特性】常緑性。樹上、まれに岩上に着生する。茎は径3～5mm。長さは大きいもので30cmを超える。葉は全縁、革質で、線状披針形～狭披針形。

【分布】北海道（南部・南千島）・本州・四国・九州・屋久島。朝鮮（済州島）、中国（浙江省）、台湾。

【県内の状況】2024年に千葉県内で初めて確認された。生育地は成田市内の大きな寺院の敷地内で、施設周辺の石垣に1株が着生しており、株は小さいが孢子嚢をつけていた。

【保護対策】生育地は人為的な構造物であるため、改修等の際には配慮が望まれる。陰湿な環境を維持することが望ましい。

【文献】海老原 2016 日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ:265／岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ: 45／木村 2025 日本シダの会会報 4(49):39-40.

【写真】2024年 成田市 / 木村 研一

【掲載理由】

県内での新発見である。本来は寒冷な山深い環境に生育する種であり、生育地の個体は由来が不明であり自生かどうか疑われるが、生育状況から、以前より長期間生育していると考えられるため、新規掲載することとした。



（木村 研一）

A ヒメハイホラゴケ コケシノブ科

Vandenboschia nipponica (Nakai) Ebihara

新規掲載

2009	-
2017	-
2023	-

【種の特性】渓流沿いの岩壁や石切場などに生育する常緑性のシダ。根茎は細く、不規則に分枝し長く匍匐する。葉身は長さ3～8cm、2回羽状復生～3回羽状深裂で卵状披針形。葉柄は長さ1～3.5cmで、基部近くまで翼がある。全体的に小型であり、葉面は立体的になる傾向がある。

【分布】北海道（西部）・本州・九州。朝鮮（済州島、鬱陵島）。

【県内の状況】君津市に標本記録がある。本州では主に東北地方から日本海側にかけて寒冷地に産し、千葉県には隔離分布している。本種として博物館に収蔵されている標本は、コハイホラゴケやホクリクハイホラゴケを含む可能性が高い。

【保護対策】渓流沿いの岩壁など、ハイホラゴケ属のシダ植物が生育する環境を維持することが必要である。

【文献】海老原 2016 日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ:314／海老原ほか 2005 筑波実験植物園研報 24: 17-25／Park, S.H., et al. 2025. *Sci. Rep.* 15: 1619.

【写真】2003.2.25 君津市 標本: TNS-VS-779083 （国立科学博物館収蔵標本 写真提供：海老原 淳）

【掲載理由】

2023年発行のレッドデータブックでは、ハイホラゴケの仲間は情報不足としてカテゴリーの評価をしなかった。しかし近年、孢子検鏡や遺伝子解析によって、県内から新産地が報告されたため、種分類が確実な産地に基づきカテゴリーの評価を行うこととした。



（荒井 智貴・館野 太一）

B ホクリクハイホラゴケ コケシノブ科

Vandenboschia hokurikuensis Ebihara

新規掲載

2009	-
2017	-
2023	-

【種の特性】 溪流沿いの岩壁などに生育する常緑性のシダ。根茎は細く、不規則に分枝し長く匍匐する。葉身は長さ2.5～8.5cm、2回羽状複生～3回羽状深裂で三角状披針形～卵状披針形。葉柄は長さ1～4.5cmで、基部近くまで翼がある。葉面は立体的になる傾向がある。

【分布】 本州（新潟県以南）。

【県内の状況】 鴨川市に標本記録がある。

【保護対策】 溪流沿いの岩壁など、ハイホラゴケ属のシダ植物が生育する環境を維持することが必要である。

【文献】 海老原 2016 日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ:315/堀ほか 2025 植物地理・分類研究 73(1): 75-80.

【写真】 2024年 鴨川市 / 荒井 智貴

【掲載理由】

2023年発行のレッドデータブックでは、ハイホラゴケの仲間は情報不足としてカテゴリーの評価をしなかった。しかし近年、胞子検鏡や遺伝子解析によって、県内から新産地が報告されたため、種分類が確実な産地に基づきカテゴリーの評価を行うこととした。



(荒井 智貴・館野 太一)

B ミウラハイホラゴケ コケシノブ科

Vandenboschia miuraensis Ebihara

新規掲載

2009	-
2017	-
2023	-

【種の特性】 溪流沿いの岩壁や石切場などに生育する常緑性のシダ。根茎は太く、不規則に分枝し長く匍匐する。葉身は長さ3.5～16cm、3回羽状深裂で卵状披針形。葉柄は長さ1.5～8cmで、基部近くまで翼がある。イズハイホラゴケとよく似るが、やや小型で、葉はやや立体的になる傾向がある。

【分布】 本州（千葉県・神奈川県）。

【県内の状況】 富津市、鋸南町、鴨川市、南房総市に標本記録がある。

【保護対策】 溪流沿いの岩壁など、ハイホラゴケ属のシダ植物が生育する環境を維持することが必要である。

【文献】 海老原 2016 日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ:315/堀ほか 2025 植物地理・分類研究 73(1): 75-80.

【写真】 2024年 富津市 / 館野 太一

【掲載理由】

2023年発行のレッドデータブックでは、ハイホラゴケの仲間は情報不足としてカテゴリーの評価をしなかった。しかし近年、胞子検鏡や遺伝子解析によって、県内から新産地が報告されたため、種分類が確実な産地に基づきカテゴリーの評価を行うこととした。



(荒井 智貴・館野 太一)

B イズハイホラゴケ コケシノブ科

Vandenboschia orientalis (C.Chr.) Ching

新規掲載

2009	-
2017	-
2023	-

【種の特性】 溪流沿いの岩壁などに生育する常緑性のシダ。根茎は太く、不規則に分枝し長く匍匐する。葉身は長さ5～26cm、3回羽状深裂で三角状披針形～卵状披針形。葉柄は2.5～12cmで、基部近くまで翼がある。ミウラハイホラゴケとよく似るが、より大型になり、葉はふつう平面的である。

【分布】 本州（伊豆諸島・関東地方以西）・九州・琉球（奄美大島）。

【県内の状況】 君津市、鴨川市、南房総市に標本記録がある。

【保護対策】 溪流沿いの岩壁など、ハイホラゴケ属のシダ植物が生育する環境を維持することが必要である。

【文献】 海老原 2016 日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ:315/館野 2021 日本シダの会会報 4(38)34-40.

【写真】 2025年 南房総市 / 館野 太一

【掲載理由】

2023年発行のレッドデータブックでは、ハイホラゴケの仲間は情報不足としてカテゴリーの評価をしなかった。しかし近年、胞子検鏡や遺伝子解析によって、県内から新産地が報告されたため、種分類が確実な産地に基づきカテゴリーの評価を行うこととした。



(荒井 智貴・館野 太一)

重要保護

B

千葉県の保護上重要な野生生物（植物・菌類） 分類群・カテゴリー別掲載種数 （令和8年3月）

*本追録により、追録7号（2025年3月発行）より変更となった箇所を赤字で示した。

カテゴリー		消息不明・絶滅生物 (X)	野生絶滅生物 (EW)	最重要保護生物 (A)	重要保護生物 (B)	要保護生物 (C)	一般保護生物 (D)	保護参考生物 (RH)	総計
分類群	植物								
	シダ植物	7	0	46	31	34	10	17	145
	種子植物	53	4	179	237	135	148	13	769
	蕨類	14	1	20	30	6	11	0	82
	藻類	10	3	21	8	2	0	0	44
植物 小計		84	8	266	306	177	169	30	1,040
菌類	地衣類	8	0	25	16	11	20	0	80
	大型菌類	0	0	2	9	15	14	0	40
菌類 小計		8	0	27	25	26	34	0	120
合計		92	8	293	331	203	203	30	1,160